

本論文は

世界経済評論 2019年 1/2月号

(2019年 1月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF



定期購読
期間中

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

トランプ外交と日本 —自由貿易体制の危機—

立命館大学客員教授・元外務事務次官 藪中 三十二

トランプ大統領が日々、巻き起こす騒動で世界は大揺れである。そうしたトランプ大統領に対して、日本では比較的に好意的な見方が散見されるが、第二次世界大戦後、曲がりなりにも世界の平和が保たれ、経済が発展してきたシステムをトランプが崩壊させようとしており、ことの重大性をしっかりと認識する必要がある。戦後の平和安定システム、それはNATOや日米安保体制に代表される米国を中心とした同盟関係と多角的自由貿易体制であり、このシステムが崩壊の危機にある。

とりわけ深刻なのは多角的自由貿易体制であり、瀕死の状況にある。アメリカの大統領から多角的自由貿易体制などはアメリカの敵だと言わんばかりの発言が続き、WTO（世界貿易機関）のルールなどは守るに値しないとみなされている。第二次世界大戦勃発の一因が保護貿易にあったとの反省に立ち、戦後、営々と築き上げてきたのが多角的自由貿易体制である。1960年代のケネディ・ラウンド交渉、70年代の東京・ラウンド交渉、80年代に入ってからウルグアイ・ラウンド交渉と貿易交渉が展開され、世界貿易は自由貿易の方向に発展してきた。この戦後の営みがトランプ大統領によって壊されようとしている。そして市場主義経済とは程遠い中国の国家主席の口から多角的自由貿易体制とそのルールは守らなければならないといった指摘がなされており、世界はまさに三流喜劇を見ているようなカオス状態、混沌の極みである。

日米間でTAG（日米物品貿易協定）という名の

交渉が開始されるようになり、日本国内でもトランプ大統領の危険な姿勢がようやく認識され始めたが、世界各国は知恵を絞り、なんとかトランプを猛獣使いのように飼いならし、トランプの自己満足はある程度満たしつつ、自由貿易体制の根幹は守る努力をするしかない。何と言っても厄介なのはトランプが最強国家アメリカの大統領だということであり、無理が通ってしまうところにある。

その意味で、NAFTA（アメリカ、カナダ、メキシコ3カ国の自由貿易協定）はアメリカ・メキシコ・カナダ協定に名を変えたが、ギリギリのところまで自由貿易の根幹は維持されたと評価できる内容であった。数量制限が持ち込まれたが、かなり高い水準のシーリングであり、実態としては大きな影響は回避された。今後、EUもアメリカとの間で類似の交渉を展開していくことになろう。日本も大騒ぎすることなく、そうした知恵をもって対応すればよい。

むしろ心配なのは米中貿易問題の行方である。習近平国家主席が大国の夢のスローガンに自縄自縛になり、外圧には屈しない姿勢を貫くあまり、うまくアメリカとの関係をマネージできず、本当の米中貿易戦争に発展しかねない状況にある。個人的関係を重視するトランプの本質を理解し、習近平がうまく対応できるかがこれからの注目点である。そしてさらに心配なのがアメリカ国内の分断状況であり、心配の種が尽きない日々が続くことになる。

（やぶなか・みとじ）